

製品名: MAST205 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13661**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	196kDa

抗原情報

遺伝子名	MAST2
別名	MAST2; KIAA0807; MAST205; Microtubule-associated serine/threonine-protein kinase 2
遺伝子 ID	23139.0
SwissProt ID	Q6P0Q8
免疫原	抗血清はヒト MAST2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1201-1250

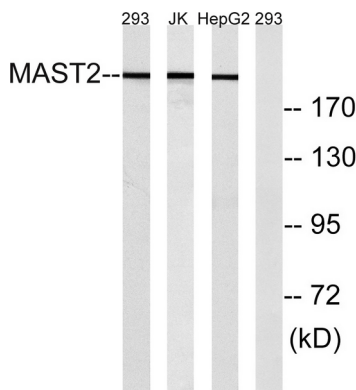
背景

触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。機能: シントロフィンを介してジストロフィン/ユートロフィンネットワークを微小管フィラメントに結び付けると考えられています。DMD または UTRN のリン酸化は、関連タ

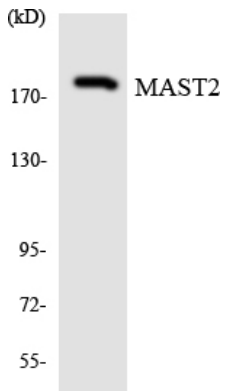
ンパク質に対するそれらの親和性を調節する可能性があります。精子細胞の成熟において、多タンパク質複合体で機能します。TRAF6と複合体を形成することでマクロファージにおけるリポ多糖誘導性 IL-12 合成を制御し、TRAF6 NF-κB の活性化を阻害します。、PTM: リン酸化され、ユビキチン化されます。N 末端ユビキチン化は、プロテアソームを介したタンパク質分解によって MAST2 の分解につながります。N 末端リン酸化はユビキチン化の前提条件であると考えられます。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。AGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。、類似性: AGC キナーゼ C 末端ドメインを 1 つ含む。、類似性: PDZ (DHR) ドメインを 1 つ含む。、類似性: タンパク質キナーゼドメインを 1 つ含む。、細胞内局在: PC-LKC との相互作用により膜下領域にリクルートされる。、組織特異性: 精巣に豊富。、触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。、補因子: マグネシウム。、機能: シントロフィンを介してジストロフィン/ユートロフィンネットワークを微小管フィラメントに結び付けると考えられています。DMD または UTRN のリン酸化は、関連するタンパク質に対する親和性を調節する可能性があります。精子細胞の成熟において、多タンパク質複合体として機能します。TRAF6 と複合体を形成することでマクロファージにおけるリポ多糖誘導性 IL-12 合成を制御し、TRAF6 NF-κB の活性化を阻害します。、PTM: リン酸化およびユビキチン化されます。N 末端ユビキチン化は、プロテアソームを介したタンパク質分解によって MAST2 の分解を引き起こします。N 末端リン酸化はユビキチン化の前提条件であると考えられます。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。AGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。、類似性: AGC キナーゼ C 末端ドメインを 1 つ含みます。、類似性: PDZ (DHR) ドメインを 1 つ含みます。、類似性: タンパク質キナーゼドメインを 1 つ含みます。、細胞内局在: PC-LKC との相互作用により膜下領域にリクルートされます。、組織特異性: 精巣に豊富に存在します。、

研究分野

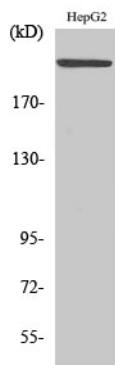
画像データ



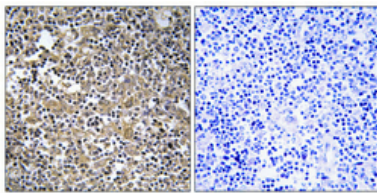
MAST2 抗体を用いた Jurkat 細胞、293 細胞、および HepG2 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



MAST2 抗体を使用した K562 細胞の溶解物のウェスタン ブロット分析。



MAST205 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。